

様式2 令和6年度 清瀬市立 清瀬第三小学校 学校評価						
学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動		【特色ある教育活動】		
よく考え やりぬく子ども(重点目標) ○やさしく 思いやりのある子ども ○明るく 元気な子ども		【育成を目指す資質・能力】 「協働問題解決能力」 ○基礎的な力(言語、数量、情報スキル) ○他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知) ○他者と共生できる力(人間関係形成力) ○社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)		重点1基礎・基本の定着と表現力を中心に学力の向上を図る。 重点2他者と共生できる豊かな人間性を育む。 重点3かかわり、つながる力を育む地域に開かれた学校づくりを推進する。		
目指す学校像(ビジョン)						
【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】		学が楽しさのある学校 信頼でき、協働したくなる学校 働く喜びのもてる学校 「他者と協働して主体的に問題を解決しようとする子ども」 ◎共に学び合い、協力し合う教師 ・子供と共に歩む教師 ・互いに高め合う教師				
前年度までの学校経営上の成果と課題						
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価 取組指標 成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	児童の実態に応じて「三小スタンダード(学習)」を見直し、効果検証と実践を行う。 読書、表現活動を推進し、効果検証を行う。	3	3	・授業のねらいを明確にし、授業の流れを見通せたりすることで、主体的に学習に取り組む姿が多くなった。 ・読書仲間だけでなく、読書の時間を適宜確保することで、進んで読書に取り組んでいる。 ・読書の全校の取組として、読書感想文作りや多読賞を励みにしたりすることで、読書の機会が増えている。	・効果検証、実践の具体的な内容や回数が設定されることと良い。 ・読書への意欲が高まって良かった。課題達成と学力の伸びが具体的に数値化されるとなお良い。	・読書活動への機運が高まってきているので、効果検証のための具体的方策や回数、数値化を意識した活動の計画を考えていく。そのことで、取組内容を明確化していく。
	校内研究での取組で、児童の習熟と学びの主体性について定期的に効果を検証する。	4	3	・ASの時間を活用した個別学習が効果的だった。児童の取組に、粘り強さが見られるようになった。 ・単元や各種テストでの達成率を意識した指導ができ、成果が出てきている。	・単元テストの達成率を意識するなど具体的な目標があり、取り組みやすかったのではない。 ・個に応じた時間を捻出したAS効果が、調査の数値として出てきている。	・単元テストの達成率の確認の頻度を上げていく。 ・ASの効果的な取組事例を共有して、取組を継続する。
豊かな心の育成	「挨拶と返事」が大切にできるよう学年・学級で取り組む。思いやりをもって友達と接したり、温かい言葉がけをしたりして交流する。	4	3	・担任からの挨拶によって、児童が自ら挨拶できるようになってきたが、できない児童もいるので、指導を継続していく必要がある。 ・温かい言葉がけのやり取りや帰りの会の友達の良さを発表し合う取組等により、思いやる言動が増えてきた。	・担任からの挨拶によって、という大人の働きかけが評価できる。 ・児童の自己評価では達成度が80%を超えており評価できるが、学年によって求められる期待値が異なるため、学年別に見ていく必要があるかもしれない。	・全教職員の挨拶の取組を継続する。 ・学年の発達段階に応じた指導・評価を考えていく。
	いじめ未然防止の取組を毎学期行う。(3年生以上は年2回のアセスを実施し、検証する)	4	4	・アンケートや児童からの聞き取りは、課題の早期発見に役立っている。アンケートでは見えない部分もあるので、児童の様子を丁寧にみて話を聞くことの必要性は常にある。 ・トラブル時には、丁寧に聞き取りと話し合い、指導を徹底している。	・聞き取ろうとする姿勢が評価できる。アンケート後の聞き取りが大切。 ・アセスやアンケートは基本の事項として継続し、これまでの実施、検証から得たことを基に、いじめ防止の効果的な具体的方策が明記できると良いと思う。	・アンケート後の聞き取りの徹底を継続する。 ・いじめ防止の具体的方策を、生活指導を中心に考えていく。
健やかな体の育成	体育集会・外遊びの充実と体育の授業における児童の意欲を喚起する教材や指導法を工夫する。	4	3	・体育集会や旬間での取組を授業にも取り入れ、前向きに取り組めるように工夫した。 ・資料や学び合いのツールとしてICT機器の活用や、教材やBGM等の工夫によって、意欲が高まった。	・児童アンケートでの「運動することが好き」に67%がよくあてはまると答えている。あてはまると合わせると90%には到達しないが、この回答は三小の宝だと思う。	・取組を継続して、運動好きの児童をさらに増やしていきたい。 ・特に、短縄や持久走での基礎的な技能を獲得させる指導を大切にしていく。
	生活リズム点検、メディアコントロール点検の結果等を使って、児童と保護者に対して生活習慣への啓発を行う。	3	3	・生活リズム点検やメディアコントロールで、児童が生活リズムを意識することができた。 ・保護者会でも具体的に取上げたが、さらに家庭への意識啓発が必要である。	・アンケートの意見からも、メディアコントロール点検は効果的な啓発となっていることが分かる。 ・教員のアンケート結果と比べると、メディアコントロール点検期間中は生活改善ができていた可能性が高い。	・生活リズムやメディアコントロール点検時の指導を工夫し、さらに継続していく。 ・点検結果の広報を工夫し、保護者への啓発に結びつける。
特別支援教育の充実	校内委員会での情報を基に、「三小スタンダード」を生かした個に応じた指導やユニバーサルデザインを工夫した分かりやすい授業や指導を行う。	4	4	・授業の流れの掲示や複数教科での板書の統一によって、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。 ・三小スタンダードの検証もする必要がある。 ・家庭の理解、協力をさらに進めたい。	・「三小スタンダードの検証もする必要がある」とあるが、「検証し焦点化する」まで具体的にしておくといいたのではない。 ・児童の肯定的回答が80%を超えており、非常に評価ができる。	・「三小スタンダード」の検証を進め、焦点化を図り、日常化できるようにする。 ・個に応じた指導やユニバーサルデザインを工夫した取組の一層の推進、継続をしていく。
	毎月取組を行い、連絡帳、学年だより、学校だより、HPで情報発信を行う。理解啓発授業は全学年で行う(年1回以上)。	4	3	・そよかぜ、きらり担当の教員と連携しながらの指導が効果的だった。 ・理解啓発授業によって、児童の苦しさに対する理解や向き合い方を学ぶことができた。 ・保護者との情報共有、個別の話し合いを進めることができた。	・児童アンケートで、わからないという回答が多かったことから、「交流活動はよかった」という設問内容が児童にはよくわからないのではない。より具体的な設問がいい。	・交流活動における児童の変容の評価やアンケート内容の改善を行う。 ・児童の意欲が高まる、交流活動の内容を工夫していく。
本校の特色	異学年交流を図ると共に、学年ごとに地域人材や保護者等との参画型授業・出前授業等を計画的に工夫して行う。	4	4	・たてわり班活動は、全学年の児童との関わり合いができて効果的だった。 ・下学年のお世話やクラブ活動、委員会活動、学団での行事等、問題解決場面があり、成長に繋がった。 ・出前授業によって、知識を得て、貴重な体験活動もできた。	・児童同士のかかわり合い、交流活動は大切にしていきたい。	・たてわり班活動の時間を確保し、班のメンバー編成を工夫し、活動を継続する。 ・出前授業の内容・人材を整理し、来年度に生かす。
	各種便りや学校ホームページ、ホーム＆スクール配信等で情報を発信する。定期的な話し合いだけでなく、日常的に意見交換を行う。	3	3	・各種便りやホーム＆スクールの配信は効果的だった。 ・各担任は、クラスルームも活用することができた。 ・各担任は、連絡帳や電話等で保護者ときめ細やかに連絡を取り合うことができた。	・活用が推進されて良いと思う。先生方の負担も心配である。 ・学校だけでなく市からの通知も多い。フォルダによる分類など、アプリの機能をさらに活用できると良いと思う。 ・紙の配布も必要な面があるかもしれないが、H&Sの活用は助かっている。	・H&Sのアプリ機能を工夫、改善を継続する。 ・保護者との意思疎通をさらに継続する。